

第1回四国中央市子ども若者発達支援センター運営審議会 会議録

日時 | 令和6年8月23日（金）13:30～

場所 | 子ども若者発達支援センター 研修室

出席者

[委員]（敬称略）

石村まどか、大西由美子、越智寛、河村英茂、児山初美、鈴木秀明、藤村明子

[事務局]

発達支援課長 河村正志

センター長 大西緑

- ▶ 管理係 河村清児、加地真大
- ▶ 総合相談係 石川考太
- ▶ 発達支援係 吉岡美緒
- ▶ 児童発達支援センター 森内真由美
- ▶ 東部子どもホーム 森田慎也

欠席者

[委員]（敬称略）

合田真由美、野本知津子

傍聴者

なし

1 開会

課長 本来であれば福祉部長が出席し挨拶をする予定であったが、急な体調不良により欠席となった。近年若者を取り巻く環境はインターネットやスマホの普及、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化、親子関係の変化など昔に比べて変わってきている。そのような中パレットでは障害の有無にかかわらず、様々なお困りごとを抱えている方からの相談を受けている。我々職員も日々相談者に寄り添って少しでも暮らしやすくなるよう努力しているが、まだまだ至らない部分もあると思っている。委員の皆様には忌憚のない意見をお願いしたい。

2 委嘱状交付

委員を代表して、児山委員に河村課長から委嘱状が交付された。

3 自己紹介

出席委員から、それぞれどのような立場でどのような仕事や活動をしているのかを紹介していただいた。

4 委員長・副委員長の選出

委員長に鈴木委員が、副委員長に野本委員が選任された。

5 議事

(1) 議事 1 令和 5 年度第 3 回会議録の確認

事務局 《第 3 回審議会会議録について説明。内容省略》
委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。
委員 特になし。

(2) 議事 2 2023 年度事業報告

事務局 《事業報告を説明。内容省略》
委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。
委員 重点施策の 2 番目にあったペアレント・メンター養成等事業の養成講座とフォローアップ講座は何名の参加者がいたのか。
事務局 昨年度は 4 名の方が受講された。今年度も引き続き開催する予定である。
委員 3 番目の療育等支援事業の具体的な取り組みを教えてほしい。
事務局 療育等支援事業は澄心の委託事業であり、市内各園に各事業所の専門分野の先生方と一緒に訪問し、対象児の支援の方法や保育に関する協議やアドバイスを行っている。6～7 名体制で行っており、パレットからも 1 名参加している。
委員 求められる役割の 1 番に幅広い高度な専門性に基づく発達支援・家族支援機能とあるが、高度な専門性というのはどういうものか具体的な例を教えてほしい。
事務局 まずこの 4 つの求められる役割とは、国から指針が示されており、それに基づいて行っているものである。その中で高度な専門性というのは児童発達支援センターにおいて主に保育士・言語聴覚士・作業療法士の専門職がそれぞれの立場で培ったスキルを活かして療育や保護者への支援を行っている。
委員 相談部門に関しては総合相談係と発達支援係の 2 つの係だと思うが、相談対応できる実人数は何名いるのか。
事務局 今年度、総合相談係と発達支援係は合わせて 13 名いるが、そのうち相談対応に関わっている職員は 11 名である。
委員 来所や電話の相談件数の報告の中に実人数は入れることはできないか。できれば月ごとの実人数もあればどの時期に相談が多いとか、相談内容についてももう少し細かく拾っていけば色々な分析もできると思う。
事務局 年間の実人数については記載しているが、月ごとまではできていない。資料の作り方については今後検討していきたい。
委員 中学校を卒業して支援学校の高等部などになった時に、夏休みの間に日中サービスを受ける場所があるのか、またそのニーズに足りているのか。

事務局 卒業後は福祉サービスを利用できる方は、放課後等デイサービスを利用する場合もあるが、実際のところ中学卒業後は市内では受け入れが難しい状況となっているので、そこに関しては何とかしないといけないと思っている。

委員 一番多感な中学生に関わる問題として、友人関係・いじめや非行に関する相談の件数が少ないのはなぜか。

事務局 パレットでは主に発達に特性のある方の相談をするところという認識があるためか、友人関係やいじめ等の相談に関しては、教育委員会の少年育成センターや市内の他の相談機関に相談に行っていることから、この分類に関してはパレットでの件数は少なくなっている。

委員 個別支援計画について、幼少期から中学校までは隙間なく繋がっていくと思うが、高校やその先の就労先では個別支援計画はどうなるのか。また特別支援学校の場合は県の支援計画になると思うが、そうになると市の個別支援計画は切れてしまうのか。市内出身の子の把握や連携はできているのか。

事務局 高等学校に関しては必要に応じて引き継いでおり、市内の高校であれば支援会議も開催している。特別支援学校の場合も新居浜までであればこれまでの個別支援計画を持参して説明している。高校以降になってくると福祉サービスや福祉事業所を利用していけば相談支援専門員の計画などもできってくるので、そちらをベースに考えるようになる。就労先も同じである。それぞれのやり方や様式があるので差し込んでもらうことはあるが、全てこの様式で統一して使っているわけではない。

委員 パレット・レターの発行部数が以前と比べて減っていると思う。やはり発行し続けることによって地域の認知度や理解の向上に繋がる。自分の周りでは子ども若者発達支援センターだが、子どもだけだと思っていて、39歳の若者まで対象だと知らない人もいた。最近はFacebookやInstagramもあるが、まだまだ紙ベースも必要だと思うので事業の周知方法について検討されてはどうか。

事務局 今年度はパレット・レターの発行回数を増やせるようにしたい。また他の周知方法についても今後検討したい。

委員 3点ある。1点目はネットワーク会議の委員のうち1名、職種が違う方がいる。2点目は研修の報告の中でこれまでは参加人数の表記があったが、この資料にはないのであった方が分かりやすい。3点目は連絡会の開催の状況について、様式を統一された方が見やすいと思う。

事務局 今後報告書の様式や見せ方については検討していきたい。

(3) 議事 3 2024 年度重点施策

事務局 《重点施策を説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員 障害児入所施設は工期が当初の予定より遅れたが、日中一時支援をパレットの既存施設を利用するなどして、障害児入所施設の開所前に利用するような考えはないのか。

事務局 職員の配置やパレットの他の事業もあるので今のところその考えはないが、ご意見を頂いたのも含めて今後検討したい。

委員 昨年度は重点施策の２番は児童発達支援センターに求められる中核的・拠点的功能の充実であったが、今年度は関係機関との連携による支援体制の強化に変わっているのは、中核的・拠点的功能の充実がある程度達成されたからなのか、それともそれを達成するために連携による支援体制の強化が必要だったからなのか。

事務局 中核的・拠点的功能の充実を果たすためには関係機関との連携が重要であると昨年度実施する中で分かってきたので今まで以上に強化していきたいと考えたからである。

委員 南海トラフ地震の発生が危惧されているところだが、先日も臨時情報の発表により水などの備蓄品が買えなかったり制限されるなどした。医療的ケア児の災害対策に関しては、一般の方よりいろんなものが必要になると思うので、関係機関との会を頻繁に開くなどして支援体制の充実には取り組んでいただきたい。

事務局 委員おっしゃる通り、災害対策についても非常に重要になってくるので、今年度しっかり取り組んでいきたい。

(４) 議事４ 障害児入所施設

事務局 《障害児入所施設について説明。内容省略》

委員長 事務局の説明に対し、意見や質問はないか。

委員 昨年度はプロジェクトチームを結成して建物などの検討を行ったが、今後また結成して受け入れの事などを検討する予定はあるのか。

事務局 受け入れなどのソフト面に関して今後どうしていくか検討中であり、プロジェクトチームについても未定である。

委員 入所者については市外・県外の児童入所施設に入所している方が、新しい施設の入所対象になるのか、それとも新規で在宅で生活している方が対象になるのか、その辺りの方針は決まっているか。

事務局 検討はしているが結論には至っていない。いろいろな方から意見を頂いており、例えば市外の施設でも安定して生活しているのであればその方を動かすより、在宅でしんどい思いをしている方を受け入れた方が良いとか、市外の遠い施設にご家族の方が通われていて、そういう方こそ戻してあげたら良いなど、様々な意見がありまとめきれっていない。

委員 今は太陽の家の成人部と児童部を１か所で行っているが、新しい施設ができて別れた場合、太陽の家の名称についてはどうなるのか。

事務局 現在法人と話はしているが、まだ決まっていない。これから話が進めば次回の審議会ではご報告できるかもしれない。

(4) その他

①「パレット・レターNo.38」について

事務局 《パレット・レターNo.38 の内容を説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

②ペアレント・メンター養成講座について

事務局 《ペアレント・メンター養成講座について説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

③令和 6 年度あったか子育てセミナーについて

事務局 《令和 6 年度あったか子育てセミナーについて説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

④令和 6 年度子ども若者発達支援センター運営審議会の開催予定について

事務局 《令和 6 年度子ども若者発達支援センター運営審議会の開催予定を説明。内容省略》

委員 意見・質問なし。

4 閉会

委員 毎回この会に参加させていただいて感じることは、障がいのある子どもや保護者のニーズに応えたり選択肢を増やしたりしている皆さんの努力は本当にすごいと思っている。子どもの成長を見るのはうれしいことだが、障がいを持つ保護者や家族は子どもが将来社会的に自立できるのか、幸せになれるのか、その辺りを一番心配したり悩んだりしていると思う。そこで今日の資料にもあったが、児童発達支援センターに求められる 4 つの役割のうち、3 つは地域に関することであった。地域にどうアプローチしていくか、地域をどう活かしていくのか、地域がその子たちをどう支えていくのかなど、パレットや個々の支援員だけが支えるものではなく、地域が支えていけるまちづくりをしなくてはいけないと感じた。今後もそういった視点でこの会に参加することで、いろいろ学び意見もさせていただきながら、将来子どもたちが幸せになることを願っている。